

# まなびで“きびる”プロジェクト

## 探究的な学び（総合的な探究の時間）における評価規準作成の参考資料

### No. 2（地域課題の解決）

#### 1 はじめに

やまぐち教育先導研究室では、学習指導要領解説（文部科学省）や「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（国立教育政策研究所教育課程研究センター）を参考に、まなびで“きびる”プロジェクトで開発した教育プログラム（以下、教育プログラムという）を活用した総合的な探究の時間における評価規準についての資料を作成しました。各学校で総合的な探究の時間を担当する先生方の授業や評価の計画の参考資料として活用してもらいたいと考えています。

#### 2 評価規準とは

総合的な探究の時間で身に付けさせたい資質・能力が着実に身に付くよう指導者は指導を改善し、学習者は学びを改善する必要があります（いわゆる指導と評価の一体化）。改善点については、各学校で作成した目標に対応した評価規準と現状とを比較することで把握するとよいでしょう。

学習指導要領（平成30年告示）では、総合的な探究の時間の目標及び内容は資質・能力の三つの柱（「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」）で整理され、学習評価については、三つの柱に対応した3観点（知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度）の評価規準が必要です。

#### 3 教育プログラムとは

教育プログラムとは、探究的な学びにおける、課題発見・解決のための調査方法やアイデア発想のコツ及び、解決策を伝えるためのプレゼンテーションの技を知ることができる解決・思考ツールです。総合的な探究（学習）の時間のほか、各教科で活用することで、児童・生徒の思考を深めることが期待できます。また、教育プログラムを使って指導することで、総合的な探究（学習）の時間等の探究的な学びについて、初めて指導する方も効果的に指導できるツールとして活用できます。

#### 4 参考資料（想定事例）

- (1) 学校名：S高等学校（普通科）
- (2) 授業：2学年 総合的な探究の時間
- (3) 単元名：地域の課題を解決するための具体的な手段を考えよう（18時間）  
※2学年の後半は個別探究テーマを深めよう（17時間）を計画
- (4) 単元の目標：

ゆめ風車通りの賑わいの減少、高瀬茶の消費の減少と人手不足という地域の課題を解決していく活動を通してア、課題解決のためには様々な人の協力が必要であることを理解しイ、現状分析や因果関係を推測するウとともに、自分の意思で課題に向き合い、協働的に課題を解決し、地域に貢献しようとするエができるようにする。

##### ※目標を構成する要素

- ア 探究課題を踏まえた単元において中心となる学習対象や学習内容
- イ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「知識及び技能」
- ウ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「思考力・判断力・表現力等」
- エ 育成をめざす資質・能力のうち、単元において重視する「学びに向かう力、人間性等」

(5) 単元の評価規準

育成をめざす資質・能力の  
三つの柱に対応

単元名	評価の観点		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
地域の課題を解決するための具体的な手段を考えよう	① 地域資源を生かす活動を行うために授業内で編成した4つの課（おもてなし課、茶摘み課、ひだまり課、あきない課）の役割や自分の所属する課の目標を理解している。 ② 目標を達成するための適切な調査方法や手段を理解している。 ③ 地域の方と協力して探究活動を協働的に実施することで、地域の課題解決に近づくことを理解している。	① 自分の所属する課の目標を達成するために、見通しをもち、仮説の検証方法を考え、計画を立案している。 ② 目的に応じた手段を選択し、関係機関を訪問したり、問合わせしたりするなどして情報を収集している。 ③ 仮説の検証に向けて、最適な方法を選択している。 ④ 探究活動によって得られた調査結果を、伝えたい内容や方法、データの質を踏まえて表現している。	① 探究活動を通して、自己の役割を理解し、グループ活動に生かそうとしている。 ② 多様な意見や他者の考えを受け入れ、活動計画を見直しながら、よりよい解決方法を見出そうとしている。 ③ 課題解決に向けて、誠実に、粘り強く取り組もうとしている。

- ①概念的な知識の獲得
- ②自在に活用することが可能な技能の獲得
- ③探究の意義や価値の理解

- ①課題の設定
- ②情報の収集
- ③整理・分析
- ④まとめ・表現

- ①自己理解・他者理解
- ②主体性・協働性
- ③将来展望・社会参画

(6) 指導と評価の計画 (全 18 時間)

㊦その場面での活用により活動の質の向上が期待できる教育プログラム

小単元名 (時数)	ねらい・学習活動	知	思	態	評価方法
1 計画を立てよう【地域活性化への取組】(8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの課の役割と目標を理解する。</li> <li>探究活動オリエンテーション                             <ul style="list-style-type: none"> <li>㊦誰でもデザイナーになれる授業</li> <li>㊦クリエイティブ・リサーチ</li> <li>㊦アイデア 100 本ノック</li> <li>㊦PROTOTYPE FOR ONE</li> </ul> </li> <li>課や班ごとに活動計画を作成する。 <b>具体的事例①「知識・技能②」</b></li> <li>課や班ごとに仮説を設定する。</li> </ul>	①			<ul style="list-style-type: none"> <li>活動日誌</li> <li>ワークシート</li> <li>活動計画書</li> </ul>
2 具体的に活動しよう【地域活性化への取組】(7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関に問い合わせる等、より正確な情報を集め、分析し、目的に応じた手段や方法を選択する。 <b>具体的事例②「思考・判断・表現②」</b></li> </ul>		② ③		<ul style="list-style-type: none"> <li>データ分析資料</li> <li>解決策提案書</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>課や班ごとに、中間発表することで多様な意見を聞き、活動計画を見直しよりよい課題解決を進める。 <b>具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」</b></li> </ul>	③		②	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間発表の振り返り</li> </ul>
3 探究成果を発表しよう【地域活性化への取組】(3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>㊦中身のいらぬプレゼンの授業</li> <li>活動報告書を課や班ごとにスライドにまとめ発表する。</li> </ul>		④	③	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表内容</li> <li>発表の振り返り</li> </ul>

各観点を見取る場面を設定する。一度に多くの観点を見取することは難しいので、確実に見取ることができるよう計画すること。

(7) 観点別学習状況の評価の進め方

○ **具体的事例①「知識・技能②」**

- ・ 評価の場面

本単元の導入では、4つの課の役割と目標を理解し、達成するためのアイデアを班に分かれて考えることにした。その際、1年次で学んできた探究活動の中での経験を生かし、班ごとに活動計画書を作成する。活動計画書の生徒の記述から「知識・技能②」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

**【評価規準「知識・技能②」】**

目標を達成するための適切な調査方法や手段を理解している。

**【期待する生徒の姿】**

各課の役割を踏まえ、それぞれの目標の達成に向けた活動計画をより具体的に立案している。例えば、お茶摘み体験やフィールドワーク、資金調達に向けた計画が実現可能な形になっている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

**【見取る方法】**

活動計画書に、具体的な調査方法や手段が記入されていることで見取る。

○ **具体的事例②「思考・判断・表現②」**

- ・ 評価の場面

具体的に活動を進める中で、地域資源や地域の人々、組織の関係や現状を理解し活用することが、目標を達成するために不可欠であると生徒が気付いていく。収集したデータを分析し、先述の気付きを踏まえた上で解決策提案書を作成する。解決策提案書への生徒の記述から「思考・判断・表現②」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

**【評価規準「思考・判断・表現②」】**

目的に応じた手段を選択し、関係機関を訪問したり、問い合わせしたりするなどして情報を収集している。

**【期待する生徒の姿】**

班ごとの計画に基づき課題の解決に向けて、それぞれの生徒が関係機関や地元企業に対して働きかけている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

**【見取る方法】**

解決策提案書に、具体的な関係機関や地元企業への問い合わせ方や情報収集の記録がされているかで見取る。

○ **具体的事例③「主体的に学習に取り組む態度②」**

- ・ 評価の場面

自分たちの取組をさらによいものにしていくために、中間発表後、生徒間で意見交換を行う。中間発表の振り返りの記述から「主体的に取り組む態度②」を評価することとした。

- ・ 学習活動における期待する生徒の姿と評価方法

**【評価規準「主体的に学習に取り組む態度②」】**

中間発表を通して、多様な意見や他者の考えを受け入れ、活動計画を見直しながら、よりよい解決方法を見出そうとしている。

**【期待する生徒の姿】**

他の生徒の発表から、新たな問いを見い出したり、話し合いの中で解決策を考えたりしようとしている。自らの発表内容や活動内容を客観的に捉え、様々な立場の人からの声をしっかり聞いて、企画に生かそうとしている。

指導者は生徒の期待する姿をめざし、生徒と積極的に関わりながら、適宜アドバイスをするなど指導していきましょう。

**【見取る方法】**

中間発表事後のアンケートの振り返りに、他者の意見を受け入れ、自己の考えがよい方向に変容し、探究活動への意欲が高まったといった内容が記入されていることを見取る。

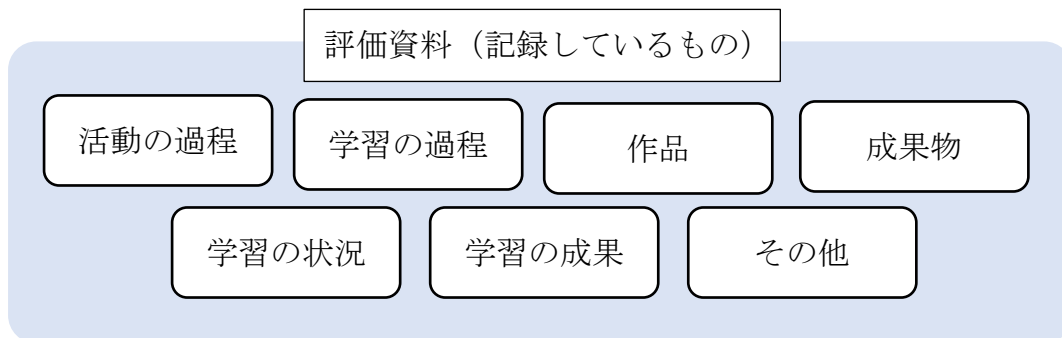
**【コラム】教育プログラムの活用場面**

小単元のまとめとして、活動報告を行う場面である。より効果的に発表内容を伝える工夫の一つとして、プレゼンテーションの技について学ぶことができる教育プログラム「中身のいないプレゼンの授業」を、プレゼンテーションの準備の前に実施することにより、表現方法の充実につながる可能性がある。

## 5 単元計画までの準備

- ① 学校教育目標を確認する。
- ② 総合的な探究の時間の目標（以下、第1の目標）を確認する。
- ③ 学校教育目標と第1の目標を踏まえ、各学校において定める目標（以下、第2の目標）を作成する。
- ④ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童・生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）（以下、改善等通知）を確認する。
- ⑤ 第2の目標と改善等通知を踏まえ、学校において定めた総合的な探究の時間の評価の観点の趣旨を作成する。
- ⑥ 各学校で内容のまとめ（目標を実現するにふさわしい探究課題、探究課題の解決を通して育成をめざす具体的な資質・能力（三つの柱））を作成する。
- ⑦ 内容のまとめごとの評価規準（3観点）を作成する。
- ⑧ 内容のまとめごとの評価規準の考え方を踏まえ、単元の目標（三つの柱による）を作成する。
- ⑨ 単元の評価規準（3観点）を作成する。
- ⑩ 指導と評価の計画を作成する。

## 6 評価の総括のイメージ



指導要録

学習活動	観点	評価
単元名等	知識・技能 思考・判断・表現 主体的に学習に取り組む態度	生徒にどのような力が身に付いたかを文章で端的に記述

### 参考資料

- ・文部科学省、『高等学校学習指導要領（平成30年度告示）解説 総合的な探究の時間編』，学校図書株式会社
- ・国立教育政策研究所教育課程研究センター、『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料【高等学校総合的な探究の時間】』，株式会社東洋館出版社